

社報 御霊本宮

第74号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
3月15日

四季の姫神

今月二日(火)、大阪管区気象台は、近畿地方で春一番が吹いたと発表しました。春一番とは、その年の立春から春分までの間に最初に吹く強い南

寄りの風のことです。「春一番」という名前からは、春の訪れを知らせる明るい言葉と誤ってしまいがちですが、

実際は違うようです。海難事故、融雪洪水、なだれ、日本海側の地方ではフ

ーン現象で大火などを引き起こすことがある恐ろしい風なんだとか。

長崎県郷ノ浦町では安政六年(一八五九)年三月十七日(新暦)に五島沖

に出漁した漁師五十三人全員が、春の強い突風で遭難しました。これ以後、

春の初めの強い南風を「春一番」と呼ぶようになったといわれています。

さて、四季の姫神を御存じでしょうか。春は佐保姫、夏は筒姫、秋は竜田姫、冬は、白姫、黒姫、宇津田姫など

と言われています。秋の姫神の竜田

は、風の神を祀る龍田大社を連想して

佐保姫、平城京の東にある佐保山から取られています。五行において、東

春であるので、春の神を佐保姫と呼ぶようになったようです。白く柔らかな春霞の衣をまとう若々しい女性だ

といわれます。

筒姫の名前は、井筒、つまり井戸から生じた名前です。筒姫とは、水の恵

みを具現化した神様ということになります。

秋 竜田姫

春の佐保姫と同様、平城京の西に位置する竜田山より付けられた名前です。竜田山は紅葉の名所でもあり、秋の神様とされたのかもしれない。

また竜田姫は、裁縫、染色にも関係する神様でもあるようです。そのため、竜田を裁田と表記することもある

ようです。

冬 宇津田姫・白姫・黒姫

宇津田は「打つ田」で、耕作のために田を打ち返すことを意味します。三

嶋大社のお田打という五穀豊穡を祈願するお祭りが、毎年一月七日に行わ

れています。飛鳥坐神社の「おんだ祭」なども、春の耕作に向けての神事とな

っています。

一説には、「ウツ」は「ウカ」「ウケ」

のことで、食物を表す古語とされま

す。食物の女神である「ウカノミタマ

ノカミ」や「トヨウケビメ」と同様に、「ウツタヒメ」も食物を表す意味があ

るのかもしれない。

白姫は雪、黒姫は冬の暗いイメージからきているものと推測されます。

万葉の花たち

わらび(ワラビ)

石走る 垂水の上の さ蕨の
萌え出づる春に なりにけるかも

志貴皇子(巻八・一四一八)

「岩の上を激し

く流れる滝のほとりでは、さわらび

が芽を出す春になったことだ」



垂水は地名であるとして、兵庫県の垂水だとか、領地をもらって喜んだ歌であるとして、撰津ではないかという推測がなされました。最近、地名ではなく滝を指す言葉ではないかという説が有力なようです。

いずれにしても春の訪れを喜ぶ、その心情があふれ出ている歌に間違いありません。寒の戻りもありますが、陽気に誘われて出かけてみたいですね。コロナが心配ですが…。

狛犬の起源

現在、狛犬と呼ばれる一對の獣は、もとは獅子と狛犬であったといわれます。獅子はライオンで、狛犬は高麗犬つまり犬とされています。

獅子は、紀元前三千年頃の人類最初の文明といわれるチグリス・ユーフラテス川流域に栄えたメソポタミア文明の中に見られます。ここから発掘された壁画や王が使用する道具に彫刻されているのだそうです。このことから、獅子は王家の権威を表わすという役割に最もふさわしい動物だと考えられていたことが分かります。

獅子は靈獣として世界各地に伝わっていきますが、インドでは仏教との結びつきが強くありません。その後、中



饗餐文の一例

国に伝わった獅子は、中国の饗餐文と呼ばれる怪しげな姿形をした想像上の靈獣と結びつきました。これが中国独特の唐獅子となり、仏教の影響を受けて左右一対で獅子を置くという形式が定着していきました。

唐獅子は漢代以降、墳墓や祠堂の前に置かれるようになり、守護獣として遣唐使などを通じて日本に入ってきました。このように日本に入ってきた獅子は、狛犬という別名を持つようになっていきます。

これは、獅子は、姿や護衛の獣として似ている犬と同類であると考えたからであるとされています。狛犬は高麗犬または胡麻犬とも表記されます。しかし、高麗の国からやってきたものとは限りません。ですから「狛」は「異国のもの」という意味で、狛犬は異国から来た犬という意味と捉えた方がよいようです。

その後日本化していった狛犬は、平安時代、宮中の調度品として置かれま

した。

平安時代後期の

「栄花物語」には「御帳のそばの獅子狛犬の顔つきもおそろしげなり」と記されています。そして次第に宮中から出て、神社や寺院の本殿内に置かれるようになります。さらに時代が下ると、本殿の前や拝殿の前に置かれるようになります。さらに境内や参道へと広がってきます。そのサイズも、外に出るようになって大型化していきました。同時に材質も、木造や金属製、陶器などに

から、屋外に置かれるようになって石造のものと変わっていきました。



本殿内安置の赤狛犬 木造 像高約70cm



本社所蔵の小型の狛犬 木造 像高約11cm

八百万の神々

天照大御神

伊耶那伎神が禊をして最後に出現したのが三貴神でした。そのうちの一柱は、伊耶那伎神が左目を洗ったときに出現した天照大御神です。

伊耶那伎神は大変喜び、天照大御神に、「汝が命は高天原を知らせ（治めよ）」と命じました。

天照大御神は、天を照らすという名の通り、太陽神です。別名、大日靈貴神といい、「ヒルメ」は「日の女神」のことで、「ムチ」とは「貴い神」を表す尊称です。「靈」は「巫」と同義で、古来は太陽神に仕える巫女であったという説もあります。

天照大御神の孫神（天孫）である邇邇芸命が高千穂の峰に降臨し、その子孫が初代天皇の神武天皇です。このことから、天照大御神は皇祖神とされ、宮中三殿の賢所には天照大御神が祀られています。

宇智郡 狛犬めぐり

上之町 八坂神社

本殿前に設置

された狛犬は、

江戸時代末期の

安政六年（一八

五九）に奉納さ

れたものです。

恐ろしい顔で

前を見つめる「

威嚇型」と呼ば

れる形式で、全

国的に多く見ら

れます。尾も団扇型で一八〇〇年代か

ら登場した形式のものです。

特徴としては、目の上にある巻き毛

が、角のように見えるところです。ま

た、吽形の頭部には、手で触れてみな

いと分からない、小さな丸い角があり

ます。阿形の頭部は平らになっていま

すので、吽形の頭部は角を意識して彫

られたものと考えられます。



お彼岸

日本後紀の延暦二十五年（八〇六）

三月十七日の条には、桓武天皇が

「早良親王のために、春秋二仲月の七

日に金剛般若経を誦経させることに

した」という記述があります。

つまり千二百年以上前の平安時代

には、すでに、春分・秋分の日が宗教

的意識と結びついていたことがうか

がえます。そして、これがお彼岸の起

源とされています。

本社の北脇社殿に祀る早良親王は、

延暦四年（七八五）九月、桓武天皇の

右腕である藤原種継たねつぐの暗殺事件に関

わりがあるとされて淡路に流される

途中で餓死しました。無実であること

を訴えて断食していたのです。早良親

王の実兄である桓武天皇が、我が子安

殿親王あきみ（のちの平城天皇）を皇太子と

するため、早良皇太子を死に至らしめ

たという説が有力視されています。

桓武天皇は早良親王の慰霊のため

に勅みことづかひをしたその日に崩御していま

す。二十一年間、良心の呵責に耐えて

きて、ついに耐え切れず早良親王の法

要を決めて安心したのでしょう。この

法要は恒例となり、朝廷の年中行事に

なりました。

古来、神道には太陽信仰や祖先崇拜

という素朴な信仰がありました。太陽

が真東から上り真西に沈む日を、経験

的に特別な日だと感じていたのかも

しれません。この特別な日にお墓参り

をすることは、祖先崇拜を第一義にす

る神道では当然のことになります。コ

ロナの関係で春秋の彼岸ではなくて

も、お墓参りは行いたいものです。



電子マネー

新型コロナウイルスが流行したこと

から、非接触型と呼ばれるものが登場し

ています。そのひとつが、電子マネーと

いわれるもので、スマートフォンで支払

う方法です。

当初は、店舗での支払いのためのもの

でしたが、コロナの関係で神社にまで普

及してきました。お守りなどの代金はも

ちろんのこと、おみくじやお賽銭もスマ

ホで支払います。コインが賽銭箱を転が

っていく音が無くなり、いつしか賽銭箱

も消えてしまう時代が来るのでしよ

か。

賽銭は神様へのお供えでもあります

から、神前に置くことが必要です。電子

マネーでは神様を素通りして神社の口

座に行ってしまうです。こんなことを考

えながらも、本社も電子マネーを導入し

ました。時代の流れといえ、それまで

ですが、神様、ごめんなさい。

Instagram @goryohongu



Twitter @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ

http://goryojinja.or.jp

日本書紀にみる

十一代垂仁天皇(一)

活目入彦五十狭茅天皇は崇神天皇

の第三子です。母は大彦命の娘である御間城姫といひます。天皇は崇神天皇

の二十九年一月一日、瑞籬宮に生まれました。生まれつきしつかりとしたお

姿で、壮年になる頃には非常に大きな度量がありました。人となりが正直

で、飾ったり偏屈だつたりするところがありません。

父の天皇が可愛がられて、常に身近



崇神天皇陵

に留めおかれました。二十四歳の時、夢のお告げにより皇太子となられました。

六十八年冬十二月、崇神天皇が亡くなられました。元年春一月二日、皇太子は皇位につかれました。冬十月十一日、崇神天皇を山辺道上陵に葬りました。十一月二日、先の皇后を尊んで

皇太后といわれました。

この年、太歳壬辰。

二年春二月九日、狭穗姫を立てて皇后とされました。誉津別命を生まれました。天皇はこれを愛して、常に身近におかれました。大きくなつても物を言われませんでした。

冬十月さらに纏向に都をつくり、珠城宮といひました。

この年、任那の人である蘇那曷叱智が、「国に帰りたい」と言ひました。

先皇の御世に來朝して、まだ歸つていませんでした。彼を厚くもてなされ、赤絹を百匹(枚)を持たせて任那の王に贈られました。ところが、新羅の人

が途中でこれを奪つてしまいました。兩國の争いはこのとき始まりました。一説によると、崇神天皇の御世に、額に角の生えた人がひとつの船に乗つて越の国の笥飯の浦に着きました。それで、そこを名づけて角鹿(敦賀)といひます。

「何処の国の人か」と尋ねると、「大加羅国の王の子、名は都怒我阿羅斯等、またの名は于斯岐阿利叱智干岐といひます。

日本の国に聖王がお出でになると聞いてやってきました。穴門(長門国の古称)に着いたとき、その国の伊都都比古が私に、『私はこの国の王である。私の他に二人の王はない。他所に勝手に行つてはならぬ』と言ひました。しかし、私はよくよくその人となりを見て、これは王ではあるまいと思ひました。そこで、そこから退出しました。しかし道が分らず島浦を伝ひ歩き、北海から回つて出雲国を経てここに來ました」と述べました。

このとき、天皇の崩御がありました。そこで、留まつて垂仁天皇に仕え三年たちました。

天皇は都怒我阿羅斯等に尋ねられ、「自分の国に帰りたいか」と問うと、「大變帰りたいです」と答へました。

天皇は彼に、「お前が道に迷わず速くやつてきていたら、先皇にも会えたことだろう。そこでお前の本国の名を改めて、御間城天皇の御名をとつて、お前の国の名にせよ」と言われました。

そして、赤織の絹を阿羅斯等に賜わり、元の国に返されました。ゆえに、その国を名づけて任那国というのは、この縁によるものです。

阿羅斯等は賜つた赤絹を自分の国の蔵に収めました。新羅の人がそれを聞いて兵を伴いやつてきて、その絹をみな奪つてしまいました。

これから兩國の争いが始まつたといいひます。

(次号につづく)